

統合ヘルスケアネットワーク（I・H・N）の中核となる 地域念願の「おゆみの中央病院」の開設

医療法人社団淳英会―千葉県千葉市

リハビリテーションを中心に、地域内で医療から介護まで、シームレスなケアを提供してきた医療法人社団淳英会（理事長・山下剛司氏）では、去る3月1日、総病床数149床の「おゆみの中央病院」を開設した。医療と介護を一体的に提供する統合ヘルスケアネットワークを標榜する同法人において、この新病院開設はどのような意味を持つのか、現地を訪ねて話を聞いた。

地域念願でもあり法人待望の おゆみの中央病院のオープン

千葉市緑区は、その名の通り緑の多い千葉市の代表的ニュータウンである。なかでもおゆみ野地区は、区内の住民のおよそ4割が住む地域となっている。周辺には公立の急性期病院は充実しているものの、民間病院或いは回復期を担う病院の数は圧倒的に少ない。一方で同地区は、高齢者比率が10%に満たない、千葉県内でも有数の

「若い町」でもある。こうした場所に本年3月1日オープンしたのが、医療法人社団淳英会の「おゆみの中央病院」である。

同法人の山下剛司理事長は、おゆみの中央病院の開設について、「ある意味で悲願であり、一方で私たちが考える統合ヘルスケアネットワーク（I・H・N）の土台の完成であり、新しいステップへのスタートでもある」と話す。



医療法人社団 淳英会 理事長 山下剛司氏

I・H・Nとは、おゆみの中央病院を中心に、同法人が運営する「おゆみの診療所」、「おゆみの整形外科クリニック」、「介護老人保健施設おゆみの」、「おゆみの居宅介護支援事業所」、地域包括ケアセンターである「千葉あんしんケアセンター鎌取」、以上6つの施設（サービス）を統合運営することにより、地域の中で最適の医療・



手術室をはじめ、血管造影装置やX線TV、X線CT、磁気共鳴診断装置など、患者の様々な症状に対応できる検査機器・設備を備え、高いレベルの医療ニーズに応じた診療・治療を提供。地域の中核病院としての、高い機能を担っていく。

「おゆみの中央病院は、私たちの掲げるIHNの核となる施設ですので、それが無事開業でき、地域の皆様にも喜んでいただけているのは、本当にうれしく思います。しかし、この病院を、そして私たちの考えるIHNを本当に機能させ、安心できる地域を創造していくための核としていくのが、これからの私たちの仕事です」

このため同法人では、電子カルテや画像検査、患者IDなどをできるだけ

「おゆみの中央病院は、地下1階、地上5階建てで、敷地面積は約1万4,792㎡、建築面積は3137.75㎡、延床面積は約1万41㎡。診療科目は整形外科、内科、循環器内科、リハビリテーション科、形成外科、小児科となる。総病床数は149床で、そのうち99床が内科・整形外科を中心とした病棟、50床が回復期リハビリテーション病棟のものである。

「もともと私たちは整形外科とリハビリテーションを専門にスタートした医療法人ですので、おゆみの中央病院でも、その点に変わりはありません。た

「私たちの強みである従来のリハビリテーションはもちろん、おゆみの中央病院には循環器内科ができましたので、バイパス手術や心筋梗塞など、心臓手

術の術後の患者さんに対する心臓リハビリテーションにも力を入れていきたい」と話す。

さらにおゆみの中央病院では、高度医療機器の数々も注目を集める。

手術室は、バイオクリーンルーム (BCR: Biologically Clean Room) の中でも最高ランクの設備となっており、米国防空宇宙局 (NASA) の基準ではクラス100に位置づけられているものである。

この基準は非常に厳しく、専用設備により0.5ミクロン以上の浮遊物質を、1立方フィートあたり100個以下に保った清潔な環境でなければ、クリアすることはできないという。このような、最高レベルの清潔さが求められる人工関節手術のための無菌手術室システムにより、整形外科医が最良の状態での手術を執刀できることはもちろん、患者にとっても安全で安心な環境を構築している。

磁気共鳴診断装置は3.0テスラの高画質なものを、X線CT装置は高性能な64スライスCTながら、ガントリの奥行き68cmと16スライスCTと同等なコンパクトさを確保。最新鋭の3Dイメージングにも対応可能な血管造影装置など、数々の先進医療機器を用意する。

おゆみの中央病院の質の高いサービ



最新の高度医療機器設備と患者目線に立ったサービス

法人内で共有化し、どの施設に患者・利用者がアクセスしても、一体化した治療や介護がシームレスに最短で受けられるシステムを確立することを目指している。



おゆみの中央病院 理学療法士 川村 悠氏

「私たちが提供している。リハビリテーションを提供している。」

理学療法士 川村 悠氏は、ある技師長のリーダーで

「私たちが提供している。リハビリテーションを提供している。」

理学療法士 川村 悠氏は、ある技師長のリーダーで



1階の外来や回復期病棟はもちろん、すべての病棟フロアにリハビリテーション室を用意。循環器内科では、最新の機器を使った心臓リハビリテーションも提供する。またコンシェルジュによるサービスなど、温かみのある患者対応も好評。



室などそれぞれのエリアはオレンジやグリーンといった色分けで分かりやすく表示されており、患者の目線で見て、直感的に移動がしやすいようになっている。また、診察室から検査エリアへの動線も、できるだけ患者の負担にならないように設計されるなど、細かな点まで配慮された患者目線の心配りがなされている。

その典型的な例が、コンシェルジュによるサポートである。このサービスにのみ専念する専門スタッフを1名用意し、1階受付を中心に適宜院内を移動しながら、患者の要望にも応えるというものである。

一見、病院によくある総合案内のようなものと思われがちだが、最大の違



いはスタッフが固定された場所で待機するのではなく、患者や利用者に目配せをしながら自ら動くことだ。このためコンシェルジュは、いわゆる「総合案内カウンター」のような固定された場所に立っているのではない。

コンシェルジュの高橋美咲氏は、「館内を回りながら、患者さんに声をかけたり、介助や、ご質問に答えご案内をするのが私の仕事です。顔なじみになった患者さんから、『安心して病院に来られるよ』といわれるのがうれしいですね」と話す。



おゆみの中央病院
ソーシャルワーカー 國吉 安紀子氏

またソーシャルワーカーの國吉安紀子氏は、「当院の開設は、地域の医療機関などからも、相当の期待を集めていると強く感じています。地域の医療機関との連携や患者さんの退院支援などに力を入れていきたいです」



おゆみの中央病院
コンシェルジュ 高橋 美咲氏

「コンシェルジュの高橋美咲氏は、館内を回りながら、患者さんに声をかけたり、介助や、ご質問に答えご案内をするのが私の仕事です。顔なじみになった患者さんから、『安心して病院に来られるよ』といわれるのがうれしいですね」と話す。



すね」と話してくれた。



統括事務長 増田貴之氏

同様に統括事務長の増田貴之氏も、「近隣に中核病院となる医療施設がなかったということで、私たちおゆみの中央病院に対する地域の医療・介護関係者、そして住民の皆さんの期待は大きいですね」と語り、同院の地域での存在感の大きさを実感させてくれた。

**地域に潜在的にある
看護人材を掘り起こす**

病院開設からおよそ4ヶ月がすぎた取材時で、全149の病床のうち、稼働させているのは75床。その稼働率は、およそ87%で、近々に100%に到達できるということである。外来の患者数は1日150〜200名。年間の売り上げは段階的にアップしつつ、20億円程度をひとつのめどにしているという。

「病床についても、まずは開院時に50床、ついで50床さらに50床と三段階での展開を考えていました。しかし、思いのほか看護師の数を多く確保することができましたので、当初の予定を変更し、まず75床と前倒ししたのです」(山下理事長)

現在、おゆみの中央病院の人員は、医師が常勤7名、非常勤40名、看護師は

常勤47名、非常勤24名、セラピストは34名(理学療法士24名、作業療法士7名、言語聴覚士3名)などとなっている。

「看護師の人材確保については、一番苦労するだろうと当初から予想していました。このため専属の人材担当課長を置き、さらに私たち経営幹部も全国の看護学校、あるいは看護フェアを飛び周り人事確保に努めました。しかし、最終的に大きな意味を持ったのは近隣や看護師同士の口コミでした」

人材担当課長の今井敦士氏によれば、おゆみの中央病院のあるおゆみ野地区は、若い世帯が多く、しかもそこには子育てなどで一度現場を離れた看護師が多く住んでいたという。そこで同院では、院内に5人の保育師が常駐し24時間対応できる保育施設を置き、さらに別途夜勤専従の看護師を集めることで、地域に住んでいる子育て中や、子育てがひと段落した看護師を多く確保することができたという。現在は法人全体で100名程度の看護師が勤務しているが、次年度には看護師数を病院単体で100名超の確保を目指している。

患者の目線に立った動線や設えなどは、設計時から建築士を交えてディスカッションを繰り返し作り上げたもの。病室の窓から見えるのは、隣接するゴルフ場の緑。求人対策に、法人所有の送迎車両には大きく職員募集のイラストが描かれている。

介護の柱となる老健と 将来の海外展開

地域内で、医療と介護のサービスを

当が熱心に動いてくれましたので、現在、60名ほどの看護師が集まって病棟などを担っています。次の課題は定着です。働きやすさや個人のパフォーマンスを引き出すことを心がけながら、短時間でも気持ちよく働けるよう、職場管理を心がけています」と話す。



おゆみの中央病院
看護師長 花澤 美枝子氏

花澤美枝子
看護師長は、「看護師の人数確保については、採用担



が強みです。また理学療法士7名、作



介護老人保健施設おゆみの
事務次長 稲葉 健太郎氏

事務次長の稲葉健太郎氏は、「当施設は在宅強化型ということで、

ゆみの」である。2003年に開設した同施設は、施設入所100名、通所リハビリテーション40名となる。ここで最も注目したいのは、その在宅復帰率の高さで、おおむね50%以上の在宅復帰率を達成し、昨年には在宅強化型老健となっている。

「介護老人保健施設おゆみの」の中心となるのが、一体的に提供するという、医療法人社団淳英会のIHNにおいて、おゆみの中央病院が全体の核であり医療の中心であるとするならば、介護の中心となるのが「介護老人保健施設お



回転が速いのですが、その分本当に必要な時に、必要な入所に対応できるのが強みです。また理学療法士7名、作

事務次長の稲葉健太郎氏は、「当施設は在宅強化型ということで、

あつても対応できるよう準備をしておくことで、十分に対応ができるのです」と語る。

おゆみの中央病院の開設により、地域ナンバーワン医療法人として、確固たる立場を築きつつある同法人だが、そのビジョンは、すでに2025年の先までを見据えている。



介護老人保健施設おゆみの
施設長 碧井 猛氏

また同施設では看取りも多く、過去3年間で65人、多い月では3

業療法士1名とセラピストが多いので、短期集中リハビリテーションが充実しており、これも在宅復帰率の高さにつながっています」と話す。

◆Information

医療法人社団 淳英会

〒266-0031

千葉県千葉市緑区おゆみ野3-22-6

TEL:043-293-6771 FAX:043-293-6772

URL:<http://www.juneikai.or.jp/>

- おゆみの中央病院
- おゆみの整形外科クリニック
- おゆみの診療所
- 介護老人保健施設おゆみの
- おゆみの居宅介護支援事業所
- 千葉市あんしんケアセンター鎌取



の看護・介護人材の受け入れも積極的に行っています。これらの人たちに私たちの考えるケアを覚えてもらい、その人たちが母国へ帰った際、そこに新しく医療・介護施設などを展開し、私たちのノウハウを活かしていただく。そういった方向性での展開も、今から視野に入れていきます」と話してくれた。(取材・文/瀬沼健司 撮影/加藤昌人)